

## 第9回愛媛県地域日本語教育総合調整会議 開催結果

### 1 会議の名称

第9回愛媛県地域日本語教育総合調整会議

### 2 開催日時

令和8年3月17日（火曜日）13時30分～15時00分

### 3 開催場所

公益財団法人愛媛県国際交流協会 第1研修室（松山市道後一万1-1）

### 4 出席者

委員11名、事務局 ※詳細は配布資料のとおり

### 5 議題

令和7年度愛媛県地域日本語教育体制づくり事業の報告及び来年度事業計画について

### 6 会議の内容（全部公開）

議題について資料に基づき事務局から説明をした後、意見交換を実施した。

#### ○主な意見

#### 【外国人雇用事業主等の支援団体】

- ・ 育成就労制度では日本語能力が要件化され、これまで以上に日本語学習が必要となることから、働きながら好きな時間で勉強ができる、オンラインによる日本語学習支援を進めていただきたい。
- ・ 経済団体においても、日本語能力が定められた基準に達しているかや、工作上必要なコミュニケーションが取れているかといった点に加え、多文化共生という観点も考えていく必要がある。

#### 【日本語教育や国際交流を行う団体の関係者】

- ・ メンバーの高齢化や高齢化等により、様々な活動の制約が生じてきている。一方、教師が足りないからといって、経験が足りない教師を現場に出すと、学習者が被害者になるため、様々なジレンマを抱えながら活動しているのが現状である。
- ・ 外国人も参加する防災ワークショップを開催する。県の事業で養成された外国人リーダーがボランティアとして参加し、他の外国人参加者に日本語でレクチャーいただく予定。日本人が必ずしも外国人を助けるのではなく、外国人に助けをもらうような場面を最近よく認識するので、そうした観点からも、外国人に防災への理解を深めていただきたい。

#### 【外国人住民】

- ・ 日本語能力と日本文化等に対する理解を含めた生活力の両方を高めることで、日本でのより良い生活に繋げることができると思う。

#### 【関係行政機関の職員及び市町関係者】

- ・ 対話の場をつくることの必要性を認識した。県では、日本人住民と外国人住民の対話型交流会を計画しているとのことだが、市町も巻き込んで実施いただきたい。
- ・ 外国籍で日本語指導が必要な児童・生徒は毎年増えているため、県教育委員会として、

国の補助事業等も活用しながら、教員の日本語指導にかかる体制を引き続き整えていく。

【学識経験者】

- ・ 日本語教育の体制づくりというのは、社会全体の中に包摂されているため、日本語教育だけを外に取り出してみるとか、外国人を外に取り出して考えるのではなく、全体の中の1つであるという認識が必要。
- ・ 行政が行う日本語教育の体制づくりのあるべき姿を考えると、日本語学習が必要だという人が声を上げた時に、受け入れられる体制を整えておくことだと思う。欲している人がいるのに何も提供できないのは、行政として大きな問題であるし、地域づくりにおいても欠けている部分であるため、その間口をつくっていくことが必要である。
- ・ 技能実習生の家族を受入企業とともに訪問した。愛媛に働きに来ている人たちが、祖国でどんな生活をしていて、どういうふうに通金をして、それがどういうふうに関係の役に立っているかということを知れた良い機会であり、こういった取り組みこそが愛媛らしい受け入れだというふう感じた。
- ・ 県が来年度計画している対話型交流会等において、外国人住民と日本人住民がうまくやっていけるように、基本的な日本語や生活上のルールや制度をなんとなく学べるような工夫をしていくのが良いと思う。
- ・ 外国人が地方で長期的に働こうと思う場合、大きなイベントを打ち上げ花火のようにあげるのではなく、日々の些細なやり取りの中で、どれだけ人間関係が構築できているかというのが重要である。そのため、例えば、プレミアム商品券等、彼らにとってもお得な情報を、会社の休み時間であるとか、地域の日本語教室の中ですること、対話が生まれ、分かり合う場が出来ていくのではないかなと思う。

〔事務局〕

経済労働部産業支援局  
産業人材課外国人材グループ  
TEL:089-907-5228  
FAX:089-912-2508